



# 真・善・美

<https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/shizuchu/>

附中だより

令和3年7月10日

TEL 054-255-0137

## 学校教育目標「よりよいものを求めてこだわり 高め合う生徒」について

教務主任 井出 祐介



### (1) よりよいものを求める姿

本校でよく語られることばの一つとして「よりよい」ということばがあります。よりよいものを求める過程では、何がよりよいものであるのか、よりよいと感じられる程度はどこからなのか、といった差を感じる人が多いのではないかと思います。元々個人によってよりよいの程度に差があると考えられますし、学級、学年、組織など、身をおく場所や立場が異なると変化するのかもしれませんが、だからこそ、よりよいものを求める過程では、多くの人とかかわり合うことが欠かせません。互いの思いや考えを知ることで「自分にとってよいもの」が、必ずしも「仲間にとってよいもの」にはならないことに気づくでしょう。そして、「誰にとってもよいもの」とは何かを考え、真に「よりよいもの」を求めていく姿につながるのではないかと考えられます。

### (2) こだわる姿

「こだわり」とは、仲間とのかかわりの中で見いだしたよりよい状態を目指す過程で、その実現のために物事を自分にとって意義のあることだと捉え、深く思い入れることだと考えます。現状に満足していたり、あたかも合意しているように見せて、人任せにしたりするのはこだわる姿とは言えません。また仲間とのかかわりがなく、自分の考えや思いに固執するこだわりとは違います。疑問や納得できないことを追求したり、自分が大切にしていることを仲間に語りかけながら、より深く思い入れたりする姿こそこだわる姿であると考えます。そのようなこだわりを発するためには、仲間のこだわりを受け入れるような土壌、温かな雰囲気や人間関係の醸成、子どもが安心できる環境づくりが欠かせないでしょう。



### (3) 高め合う姿

仲間の「よりよいもの」や「こだわり」の多様性を受けとめ、子どもたちが認め合い、磨いていく経験をする中で、集団の中で個を生かす“個の確立”や、校訓に迫るような新たな価値を見いだすことができるのではないかと考えます。このような「高め合う」過程を経て、互いが出し合っている理想を出し合い、互いの「こだわり」を具現化し、「よりよい」ものを実現させていくことができるでしょう。そのような経験を積み重ねていった子どもたちは、仲間とよりよいものを創っていこうと積極的に物事に取り組み、自分たちの手で創りあげることに自信をもつと期待されます。



よりよいものを求める、こだわる、高め合うという一連の過程を経て、“人間の最高の価値”である「真善美」を求めるような子どもたちを育てていきたいと思えます。

(写真は先日行いました附中キャンプの準備と当日のようすです)